

坂の上の星雲

西郷 西盛

第一章 黎明編

第一話 春や未来

まことに小さな星系が開化の時をむかえようとしている。

その中の一つの惑星が地球であり、地球は、ヨーロッパ及び中南部アフリカ連合、スラブ民主共和国連邦、統一インド同盟、中華人民合衆国、大東亜諸国連合、大イスラム連盟、太平洋合衆国、統合ラテンアメリカ共同体にわかれている。大東亜諸国連合の首都は海京特別市。

古い区分では日本国沖縄県沖縄本島那覇市。二十一世紀末に勃発した第二次世界大戦直前に、日本、台湾、大韓民国三カ国による、東シナ海条約機構が成立したとき、三カ国の中核あたりにある沖縄に本部が置かれたのがはじまりである。大戦の進展とともに、東南アジア諸国連合、ロシア連邦から独立した極東欧羅西亜連邦との三地域同盟が成立し、終戦とともに大東亜諸国連合として一つのブロックを形成するにいたつた。さまざまな疑惑がからみあい、喧々諤々の議論の末、結局、中央付近に位置した沖縄が海上の京、海京と名前をかえて首都となつた。

この物語の主人公は、あるいはこの時代の小さな地球ということにならぬかも知れないが、ともかくわれわれは三人の人物のあとを追わねばならない。そのうちのひとりは、のちに銀河100年戦争史をまとめる歴史家の森本昇である。昇は西暦2232年に、故郷の三浦半島で

春や未来と、希望に満ちて銀河に乗り出した地球人類は、他に例を見ないほど凄惨な仕打ちをもつて迎えられた。・・・・・

1 で始まる歴史書を上梓した。多少泣き言じみたところがあるが、昇は、その前の世代に初めて宇宙考古学を提唱した古代守のよう、わずかな証拠から推論。―― というより推理に近い理論を展開していく。

―― もつとも、大筋では間違えてはいなかつたが。―― に比較すると、銀河各地に実際に出向いて調査できた点、第一章の「銀河系諸人類の歴史概略」についても、より信憑性の高いものとなつてゐる。

〔守さん〕

といわれた古代守は、ロボット工学者の古代武夫の子にうまれた。武夫は先述した宇宙考古学者の古代守の年が離れた弟で、妻の亜紀子との長い長い不妊治療の末に授かった妊娠六ヶ月の時に兄が急逝したため、武夫は大好きだった兄の生まれ変わりだと長男に守と名づけた。そ

のためこの物語には古代守という人物が一人登場する。どうも同姓同名はややこしいので、宇宙考古学者の古代守を今後古代守翁とよびく区別することにする。

守さんに話をもどす。守さんは2166年産まれの七ヶ月児だが、成人して大男になつたところをみれば、早生児というのはその後の成長にさしつかえがないのかもしれない。

守さんが十歳になつた2176年、大東亜諸国連合も古代家もひっくりかえつてしまつ出来事がおこつた。

大東亜諸国連合宇宙移民宇宙船団遭難事件である

「神代計画が失敗に終わつた。すべてが無駄に終わつてしまつた。」

ということで、大東亜諸国連合も國民も憔悴しきつた。神代計画は、

大東亜諸国連合の外宇宙開発計画のこと、第三次世界大戦後の2137年に始動した。当時の所長は佐渡魚造博士さわいざいで、低身長と自分の容姿に異常なコンプレックスを持つていた点を除けば、宇宙工学の世界的権威であり、リーダーシップをよく發揮していた。武夫も惑星開発用人型重機の開発主任として神代計画に参加していた。

宇宙開発でも、二十二世紀にはある程度太陽系の配分は決まつていた。

火星は最初に到着したアメリカ率いる太平洋合衆国、木星も太平洋合衆国。金星は中華人民合衆国、水星はヨーロッパ連合。土星はロシア率い

るスラブ民主主義共和国連邦。統一インド同盟は天王星。統合フテニアメリカ共同体は海王星。という具合である。それでも、大東亜諸国連合は冥王星及び外周天体をなんとか縛張りとして獲得していた。

大東亜諸国連合の宇宙開発は困難を極めた。

「遙かなるかな冥王星」

とにかく冥王星は遠かつた。また、その遠さに見合つ大きさも資源も無かつた。同じ小さな天体でも水星は太陽に近く無尽蔵の太陽エネルギー開発を行うことが出来た。天王星や海王星も遠いが、彼の星は巨大で資源は豊富だつた。それならばと、大東亜諸国連合は外宇宙への進出にその国運をかけた。

〔丘道切符の外宇宙探査〕

と、世界中が非難した外宇宙恒星探査船「希望」1～8号を派遣したのが2140年。実際、予定の期日を過ぎても一機も希望号は帰つてこなかつた。予定を大幅に遅れて2172年に32年と2ヶ月と8日の旅を終えて、山下大次郎隊長率いる惑星探査団を乗せた希望8号が帰還した。しかも、アルファケンタウルス星系第三恒星の第一惑星が簡単な惑星改造で移住可能だという報告がなされた。人類は第三恒星の第一惑星をプロメテと名づけた。希望8号の船長はドイツ系日本人のファントム・F・ハーロック。かれは日本人女性と結婚し日本に帰化したドイツ

系日本人だ。古代武天の妻亞紀子はこのハーロックの娘である。

移住可能な惑星が見つかると神代計画はいっきに加速した。派遣した八機の探査船のやつと一機が移住先を見つけて帰ってきたのだ。それまでの半世紀近い時間と天文学的な予算の浪費。このために受けた各方面からの圧力。あせりもあつたのだろう。三年後の2075年には、元希望8号船長ハーロックを船団司令とした移民用宇宙船4機、移民団四千人の船団が出発した。希望8号の時代に比べ格段に進歩した宇宙船は、予定では七年でプロメテへ到着する予定であった。ところが、火星と木星の間にあるアストロイドベルト付近を航行中に消息を絶つてしまつた。大搜索の結果、無数の宇宙船の残骸が発見され人々を呆然とさせた。唯一、司令船である4番船の司令塔部分のみが発見された。瀕死のハーロック以下十四名の生存者の証言によると、一文字断鉄船長の1号船が突如、周りの船に攻撃を加え破壊してしまつたということであった。

「一文字断鉄は、惑星プロメテの独裁者にならうとして、仲間の機を撃墜したのち、あやまつて自らもその野望のために宇宙のチリになつたにちがいない。われわれ人類のうらぎり者にふさわしい最後だ。」

外宇宙開発を行つていた、ドップラー博士である。

とにかく、神代計画に対する世間の評価は決定した。めくるめく非難

の中で、生涯を宇宙開発にかけた佐渡魚造博士のピストル自殺によつて神代計画は有無消散してしまつた。博士がもつともかわいがつた助手の山本轍はこの時のことをのちにこう述べている。

「あんな偉大な人はいなかつた。あんなに世間がせめなければ、佐渡先生はイスカンダルに教えられずとも空間転移航法にたどり着いていたはずです。歴史にもしもはありませんが、ガミラス侵攻時にあんな悲惨な思いを味わう」ともなかつた。本当に残念な」とでした。神代計画にも、人類にとつてもですよ。」と。

守さんは十歳の子供ながら、この出来事は終生忘れられぬものになつた。のちに事件の真相を知り。

「あれを思うと、こんにちでも腹が立つ」

と、かれは後年ファントム星での航海日誌のなかで洩らしている。

神代計画の残党たちのいくつかは大東亜諸国連合が極秘裏に立ち上げた新国家プロジェクト弥生計画に吸収された。神代計画の成果として準惑星カロンではじめて発見された、エネルギー鉱石コスモナイトの研究を中心としたプロジェクトである。しかし、神代計画の失敗で国家財政は底をつき、予算規模は三十分の一まで縮小され、多くの職員が失業した。

古代武夫家はとりわけ悲惨であつた。失業した上に、後遺症の残つた

ハーロック氏の介護。さらに「子供がもう一人増えることとなつた。
「」の子をそだててください」

亜希子の妹の華衣が、乳飲み子を抱えてやつてきた。父親はスラブ民

主共和国連邦人で、ミル・エス・パノスキーという。当時のスラブ民主共和国連邦はバシウ党という全体主義政党の独裁体制だつた。ミルは民主化

運動の闘士で、華衣はそれに共感して義勇隊として民主化運動に身を投じた、共感は恋へ、恋は愛へ変わり、進が産まれた

独裁政権に抵抗しているエスペスキーファミリーは、当然身の危険が多くあつた。幼い子供を巻き込むのは忍びないと、華衣は姉の亜希子にあづけに来たのだ。

「わが家もそれどころではない」と、亜希子はことわつた。

それを、十歳になる守さんがきいていて。「あのな、それはダメだと思う。」と両親の前にやつってきた。「あのな、お母さん。赤ん坊をみすてたらダメだよ。ぼくがもつと勉強してな、羊羹ようかんほどのお金かせいであげるから。」

札束を積み重ねて羊羹ほどのあつさにしたいと、悠長な表現だが、とにかくこれで亜紀子が育てる決心を固めた。華衣夫妻は赤ん坊を置いてスラブ共和国連邦に帰つてしまつた。

ス 一 バ 一 セン とう

中学生のころの守さんは、家計を助けるために大型大衆温泉型銭湯でアルバイトをはじめた。ゲルマン系の血が4分の1は入つていて守さんは、13歳で178センチの長身で、年をこまかして中学生ながら仕事を始めた。

「温泉で床をみがいてはつた」

というのが、三浦半島に残る口碑である。守さんはすでに十三になつていて。色白で目がとびきり大きく、しかも鼻が隆くたか、いわば異相で、町の人は

—— おじいさんのハーロックさんの若いころにそつくりだ ——
とうわさした。大きな目じりが、やや垂れているあたりが愛嬌になつていて。唇が娘のように赤く、そういう守さんを町などで見かけると、若い娘たちが声をひそめてうわさした。

中学校とアルバイトの両立は想像以上に大変で、また、両親には内緒にしていたため、クラブ活動と偽つて働いていた。それでも、学習をおこなうことなく、守さんは3年間トップを守り、主席で卒業した。

古代家の当主武夫ほど逸話のすくない人物もめずらしいであろう。

「あんなまじめな男もない」

というのが、若いころの評判であつた。早くからロボット工学で頭角をあらわし、**機動重機**マグナム型と名づけられた汎用型惑星開発用重機を設計していた。**機動重機**とは、身長10メートルほどの人間が操縦する人型ロボット重機のことで、将来の惑星改造の主力重機となるはずであつた。開発は順調に進み完成まであと一歩といふところまできていた。そのうち神代計画の瓦解が來た。退職金もままならなく解雇されたが、

「」の研究はかならず人類の役に立つ

と、自費でマグナム型の研究を進めたりしたので、ますます金がなくなつた。再就職もなまならないスタッフなどは、元も子もなくなり路頭に迷うものさえ出てきた。

古代武夫は、そういうなかで多少めぐまれていた。妻の亜紀子が医師の資格を持つていて開業医として古代医院を開業していた。ただ、ハーロック氏はますます衰え、乳飲み子を抱えて開業時間は思うよにこれなかつた。

「うちには金がないが、お前の人生はなんとかしてやるよ」

というのが、古代武夫の、守さんへの口ぐせであつた。

守さんが、生活費の足しへと隠れてアルバイトをするのは、いわば武

夫の教育方針であつた。

「金はなくとも大学まではなんとかしてやる」

この父は、ちょっとした名言をはいた。古今の偉人はみな貧窮のなかからうまれたが、**守**がもし偉人になるのなら金はむこからやつてくるさ、といった。

弥生計画が、少ない予算とスタッフでやつた仕事の中で、もつとも重要な成果は人工重力の発生であろう。

物理学者の小川博士を長とするプロジェクトで、コスマノナイトが空間を捻じ曲げ、重力を起すことができたのだ。それまで、重力は物質の質量による空間のゆがみ以外では発生しないと考えられていた。比較的簡単に重力をコントロールできる方法の確立は宇宙開発にとって大きな成果であつた。

それまでは、遠心力で擬似重力を発生させる以外宇宙空間では基本的に無重力であつた。したがつて、宇宙船内の乗組員の体力や健康管理、日々の業務はもちろん、食事ひとつとも訓練が必要だつたし、長期の宇宙滞在は、それこそ命がけであつた。それが重力を発生させることによつて宇宙船内で地球と同じ生活が誰でも簡単にこなえるようになつたのである。また、二十一世紀の時点でも宇宙船の重力圈突破は大きな困難であつた。7.9 km/hというすさまじい速度がないと宇宙へは出られないのだ。宇宙船の大半は重力圈突破のためだけの自身を加速す

るシステムにしめられ、デザインも高速による空気抵抗に耐えるために流線型に限られていた。大掛かりな宇宙船は宇宙空間で組み立てるしかなかった。重力を自由コントロールできると、低速でも簡単に重力圈を突破できるため、空気抵抗を以前ほど考えなくともよくなつた。極端に言えば、気密さえしっかりすれば、海に浮かぶ船をそのまま宇宙へ持つていくことも可能になつたということだ。今後の進展によつては「空間^{ワープ}転移による恒星間宇宙飛行も可能になるかも知れない」

大東亜諸国連合の宇宙開発はにわかに活氣づいた。

守さんが中学校を卒業する十五歳の秋、地球がひつくりかえつてしまふ。という事態がおこつた。

テレサのメッセージである。

「宇宙人が攻めてくる」

ということで、地球中の人々がおびえきつた。メッセージは2179年9月11日に全地球上、いや全太陽系、おそらくは全銀河系で受信された。まことに不思議な電波で、いくつとも微弱な電波なのだが、スイッチを切つても機械の中をも勝手にかけめぐり、ついには多くの受信装置のブレーカーをとばしてしまつた。

当時、大東亜諸国連合科学技術省の技官であった。伊賀歳三は海京市

中央管理室でこの電波受信した。電源をオフにしてもダメで、勝手にシステムの中を電波が駆け巡るため狼狽しきつた部下を前にして

「このままではオーバーヒートする」

と、ついには配線を切るよう指示をだした。タツチの差で間に合わず、中央管理室のメインコンピュータがダウンし、都市管理機構が麻痺してしまつた。海京市全体への電気供給が止まつて、街全体が闇につつまれてしまつた。微弱ながら、当時地球最大のコンピュータをオーバーヒートさせる不思議な電波だつた。

かなりの量の音声信号が記憶され、再生可能だつた。動力回路の修理が終わりしだい地球のことばできけるわけだ。だが、歳三はいつぶやいたと、まわりにいたスタッフの一人がその日の日記に書き残している「わたしは・・・なんだか、聴かないほうがいいような気がする。

聴いてしまえば・・・何かが始まるような気がする。きけば何か良くないことがはじまつてしまつようのような気がする・・・なにか良くない」とが・・・」

と、歳三が翻訳をいやがつた通信データは、動力復帰後直ちに翻訳された。もつとも、電波自体は弱かつたので、全ての記録は取れていなかつたのだが。

「銀河のみ……わた……はテレ……ドのテレサ……今……わたしたちの……する……を……強大な……が……あなたがたの……する……かも知れません……が……時間が……もう……早く……立ち上がって……早く……だれかが……この通信を……早く……立ち上がって……そうでないと……」

「このあと、一瞬、祈るような美しい女性とも、女神とも、なんともいえない美しい光り輝く画像が入っていた。

まもなく八つの地域を束ねる国際連邦の対策会議が太平洋合衆国ハワイ州ホノルルで開かれた。とは言つても何から手をつけたらよいかまったくわからない。そもそもこのメッセージで当時最も気を引いたのは、初めて地球以外に生物の存在が、しかも、明らかに高度な科学文明を持った知的生物の存在が確認されたことである。

もつとも、地球外知的生物の存在自体は、2163年に先述の守さんの叔父で宇宙考古学者の古代守翁と文化人類学者のサケザン・サセソーネ博士が発見した化石円盤によつて明らかにされてはいた。化石円盤とは、アフリカのコンゴ盆地で発見された、数百万年前に飛来したと思われる宇宙船の残骸のことである。化石円盤は宇宙考古学の根幹を成す発見だが、後に触れるためここでは詳しくふれない。

とにかく、メッセージへの対応としていくつかの決定がこのハワイ会議でなされた。

・各地域の宇宙艦隊の充実

・避難用の地下都市の建設

・宇宙探査の拡充

・地球生物のDNAパターンの収集 記録

・それらのための技術交流と各地域での研究拠点の建設

などがそれである。返信を送るべきだとの意見もあつたが、こちらの7 存在を積極的にアピールするのは危険だと見送られた。

テレサのメッセージは思わぬ変化を古代家に与えた。初の地球外知的生命との接触はいがうえにも外宇宙開発の気運を高めた。翌年大東亜諸国連合政府は神代計画をプロメテ計画と名をかえて復活させることを決定した。新しい所長は宇宙船工学の権威大江戸博士に決定し、自主開発でマグナムD型を完成させていた古代武夫は、ロボット工学を生かして、宇宙強化服の開発を任まかされることとなつた。古代家の家計は一気に好転した

「高校に進んだ守さんは、武夫から

と、言われた。両親には内緒にしていたはずなのに親にはかなわない
など感じつつ、働きながらでも中学のとき何とかなつたのでアルバイト
は続けることとした。ただし、今度は歳を「まかす必要がなくなつたの
で、銭湯はやめて、自分の好奇心のおもむくままに、丁度募集していた
小笠原海上都市の海底遺跡発掘スタッフの募集に応募してみた。倍率3
倍の難関で試験もあつた。論文記述試験があつた、応募したほとんどが
太学生以上だったので、

「ハリや落ちたな」

と、思つたが、意外に試験はうまくいつたようで合格した。守さんは
海上都市で働くことになった。

第一話 了

次回第一話 「進」